

第4回在宅医療検討部会ワーキンググループ活動報告

1 設置目的

24時間在宅ケア体制の実現に向けて、多職種連携等の取組内容を検討する。

2 構成メンバー

【資料第5号_別紙】のとおり

3 実施日及び主な内容

実施日：令和7年6月26日（木）

主な内容：以下の3点についてグループワーク

- ① 地域の居場所等の活動に多世代・多国籍の方の参加を促すような「楽しい」、「有意義」と思える内容について
- ② 多職種専門職（医療・介護・福祉等）及び地域支援者（地域団体運営者等）が、他者に伴走し、継続的に関わる意識醸成を図るには
- ③ 誰でも気軽に集い、安心して相談できる「社会資源」に期待される役割について

4 グループワークで出た意見

グループワークでは、主に以下のような意見が挙げられた。

① 地域の居場所で「楽しい」、「有意義」と思える内容について	・多国籍料理会や多世代が集う食事会など、「食」をテーマにした交流は言語の壁を越えやすい。 ・音楽、スポーツ、塗り絵といった「言葉のいらない時間」は、多様な背景を持つ人々が参加しやすい。 ・自身の健康状態を把握するイベント（血圧測定など）は年代問わず関心が高く、景品も有効な誘引策となる。 ・まずは「楽しい」を全面に出して参加のハードルを下げ、徐々に健康知識などの「有意義」な要素を加えていくアプローチが有効。 ・多国籍の方も集まれるサロンで、病名や受診方法などを学ぶ場があると良い。
② 伴走支援に関する意識醸成について	・専門職は問題解決型の思考から脱却し相手に寄り添う姿勢が重要。一步下がって伴走する意識を持つ。 ・地域コミュニティは「開かれている」だけでなく、特定の課題を持つ人を支えるために意図的に「閉じる」側面も必要。この両面を行き来する柔軟性が求められる。 ・医療・福祉職向けの「地域活動体験ツアー」を企画し、現場を直接体験することで意識醸成を図る。 ・肩書を捨てて、一人の人間として関係性を作っていく姿勢が大事。 ・地域住民との関わり合いの中で対話が生まれ、打ち解けていき、サービスや専門職への架け橋となっていく。その架け橋役の育成が大切。
③ 「社会資源」に期待される役割について	・新たに資源を作るのではなく、既に地域に根付いている喫茶店、商店、薬局などを社会資源として捉え、連携する方が、住民に打ち解けやすい。 ・地域には影響力を持つキーパーソンが存在する。こうした方と連携することが支援の輪を広げる鍵となる。 ・多様な人々との関係性の中で、当事者が「これをやってみたい」という主体性を自然に引き出せるような場であることが大切。 ・困っている人は待っていても来ないので、アウトリーチしてつながる姿勢を持つ。 ・薬局などで、気になる人が居たら包括につなげる等の取組を進めて、周囲に拡げていく。

⇒このような意見を踏まえ、事務局で今後の「目指す姿」を整理し、その内容を踏まえて第 5 回で意見交換を実施する予定。

5 今後の予定

令和 7 年 10 月頃に第 5 回目を実施予定。実施結果については、次回の部会にて報告を行う。